

令和3年度第1回白井市立図書館協議会（概要）

- 1 開催日時 令和3年7月29日（木）15:00～16:10
- 2 開催場所 白井市立図書館2階 研修室2
- 3 出席者
 委員 中野会長、北原副会長、堀江委員、中嶋委員、佐藤委員、苛原委員
 事務局 石田文化センター長、高花主幹、鎌田館長、内山副主幹、藤田副主幹、高嶋主査
- 4 傍聴者 3名
- 5 事務局あいさつ
- 6 委員紹介 遠藤委員が令和3年3月で退職されたため、4月から桜台中学校長堀江氏に委員を委嘱
- 7 会長あいさつ
- 8 報告事項
 (1) 令和2年度図書館事業実績について（書面にて事前報告）
 (2) 令和3年度図書館事業計画について（書面にて事前報告）
 (3) 文化センターのあり方検討委員会進行状況について
- 9 協議事項
 (1) 電子書籍の導入について
- 10 その他
- 11 配布資料
 (1) 会議次第
 (2) 会議資料
 (3) 文化センターだより8月号
 (4) 図書館カレンダー8～11月
- 12 議 事 以下のとおり

会長	<p>本日はコロナウイルス感染症も収まらない中、お集りいただきありがとうございます。白井の図書館がコロナウイルス感染症対策を講じ工夫しながら開けてくださっていることに市民として感謝しています。これからも広く市民に利用してもらえる図書館を目指してみなさんと協力して協議をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>報告事項(1) 令和2年度図書館事業実績について（書面にて事前報告）</p>
委員	<p>昨年度、トイレに水をまいてしまう迷惑行為があったが最近は収まったか。</p>
館長	<p>その後も続いてしたが、地域包括支援センターに相談したところ、来館した際「〇〇さんこんにちは」など、声を掛けることで防げるのではないかということだった。来館する度に声掛けしたところ改</p>

	善しているが、このまま収まるか、わからない状況である。
委員	年報22ページ「令和2年度図書館サービス指標」を見ると貸出冊数がだんだん減ってきているようだ。 1人につき15冊までという貸出数は10冊くらいでもいいのかなと感じる。すでに決まったことではあるが今後見直すことはあるか。
館長	年報41ページ「図書館における新型コロナウイルス感染予防対策」にあるとおり、休館などがあった影響で令和2年度は貸出冊数が大幅に減っている。1人につき15冊以内という貸出数については、改正してからまだ3年ほどしかたっていない。コロナが落ち着いて、それでもなお利用が少ない場合はアンケートなどでご意見をいただいたうえで改正することもありえる。今は状況が不安定である。15冊いっぱい借りていく人も多い。
委員	個人的には3週間15冊は読み切れない。すでに決まったことなので冊数の変更は先々の話になると思う。
館長	ご意見は今後の参考にさせていただく。
委員	15冊は家族の分を借りていく場合もあるのではないか。
会長	15冊にして利用者からの意見はあったか。
委員	そもそも15冊にしたきっかけは何だったか。
館長	夜間開館の日数が減ったことで、逆に広げられるサービスはないかと検討し、アンケートでも、それでよいという意見が多かったので貸出数を増やした。ただし、回転数を考えた場合3週間だと長いので、予約待ちがある場合は2週間の貸出期間とした。 今のところ概ね好評である。最初は多すぎるという意見もあったが、短期間のレポート作成などは、まるまる一冊読むわけでもないのに、たくさん借りられてありがたいという意見もある。お子さんも、たくさん借りてすぐ読んでしまうので、助かっているという話も聞いている。
	報告事項(2) 令和3年度図書館事業計画について（書面にて事前報告）
委員	資料購入費を増やせないか。年報40ページ「図書館運営の望ましい基準と目標値」を見ると目標値のおよそ4分の3の予算になっている。 魅力ある図書館づくりのため、コロナ禍で楽しみが少ない中で図書館に来る方もいるので市民サービス向上のため、もう少し予算が付いた方がよいと思う。

館長	資料費はできるだけ獲得したいと考えている。市の財政も厳しくコロナで予定外のこともある。報告事項(3)の文化センターのあり方検討委員会の資料からもわかるように修繕費も必要である。資料費に割くのはなかなか難しいが努力はしている。
委員	図書館に寄贈されて実際に図書館で使われる数はどの程度か。
事務局	ありがたいことに寄贈される数は多い。司書がその中から選書をしているが、装備などで受け入れできるのは1日数冊程度である。リクエストが多い本の寄贈は、即日受け入れるようにしている。郷土資料に多いが、電算上でデータが無い本の受入れはデータを一から作成するので時間がかかる。購入と寄贈を合わせて年間10,000冊を超える新しい本の受入れができています。
委員	巣ごもり生活で寄贈する人が多いと思う。古い本などを図書館に持っていくと迷惑なのではと考えてしまうが、持ってこられると困ることもあるのか。
事務局	段ボールで持って来られる方もいる。本の状態と当館の所蔵状況をみて、いただいた中から選んで受入れている。既に所蔵している百科事典や全集などは、お問い合わせ時にお断りする場合もある。寄贈された資料を所蔵とするか否かは、図書館に任せていただくことを条件にお預かりしている。 昨年度は656冊の寄贈本を受け入れたが、選書待ちの寄贈本がまだたくさんあり、合間を見て作業している状態である。 受入れない本については、状態の良い本はふるさとまつりで活用してもらうようにしているが、コロナウイルスのため2年連続で中止となったため、ダンボール30箱くらい別置している。
会長	財政難の中で、市民の寄贈資料の活用や、活用する窓口を作っていく、良いことではないか。ただ選別する手数料がたいへんだらうと思う。
委員	おはなし会を再開したそうだが、今また感染がひどくなっているようだ。集会事業について図書館はどう考えているか。
館長	千葉県知事が緊急事態宣言を発令すると言っているが、市の対策会議で集会事業は中止という指示があれば行わない。範囲が未定であるので回答できない。
委員	指示が出るまでは、やっているのか。
館長	開催している。今週は、「おはなしウィーク」も行った。
委員	人数はどのくらい来ているか。

館長	数人の参加があった。
委員	自分たちも9月にできるか悩んでいる。緊急事態宣言が出たら即中止になるのか各自の考えになるのか。
センター長	緊急事態宣言が発令された場合、千葉県で出した内容を、市でも対策会議を行って方向性を決定する。その中で図書館から提案したものが承認されれば行事を行うことが可能だが、最終的には市の判断となる。
事務局	<p>報告事項(3)文化センターのあり方検討委員会進行状況について</p> <p>文化センターは4館からなる複合施設で、平成6年に開館し27年目に入り、施設の老朽化で大規模改修が必要となっている。社会情勢の変化、市民ニーズを踏まえてこれからの施設の利用方法を検討するため文化センターのあり方検討委員会を立ち上げた。</p> <p>これまで3回開催し、委員会を立ち上げるまでの経緯や市の財政状況、文化センターの運営状況の説明を行い、各委員が議論の土台となる共通認識を持つところまで来ている。本日第二回会議の概要版を配っているが、もう少し進めば詳しいものを用意する。</p> <p>今年度からいよいよあり方について調査・審議することになっているが、その中で利用者をはじめ市民や関係団体の方に文化センターの利用に関して意見を聴取し、結果を検討委員会に報告して審議の参考にすることを予定している。文化センター4館の協議会も関係団体として意見聴取を考えている。実施時期や質問内容は未定なので、決まり次第事務局を通じて相談させていただく。</p>
会長	今日のところは説明だけで意見はよろしいか。
事務局	今日は説明だけさせていただいた。
事務局	<p>協議事項(1)電子書籍の導入について</p> <p>パソコンやスマートフォンを使って見ることができるものを電子書籍と呼んでいる。通常の資料を使うのが難しい方や来館が困難な方などに図書館サービスを届けるのが導入する目的である。白井市第5次総合計画後期基本計画において、令和7年度までに電子書籍の導入や郷土資料のデジタル画像化等を検討するとしている。</p> <p>メリットのひとつは来館せずにサービスを利用できること。図書館側のメリットは予約や督促の作業が不要になり紛失や破損なども心配ない。郷土資料の画像や文書もデジタル化して公開できるようになる。</p>

	<p>デメリットは導入費が高額であることと、現在ではまだタイトル数が少なく、新刊やベストセラー作品は提供されにくいことがある。</p> <p>課題としては財政状況が厳しいため、現在の資料費約2,300万からどの分野のコンテンツを提供するか、おおまかな電子書籍用の収集方針が必要となる。</p> <p>電子書籍は、買い取り式と制限付き（有効期間2年もしくは貸出制限52回）があるのでバランスを考慮する必要がある。</p> <p>図書館システムと連携させホームページから検索や予約メールができるようにするには別途費用が必要である。</p> <p>次回電算機器更新が令和7年度なので、それまでどう進めるかが課題である。</p> <p>（今後の方向性）</p> <p>令和3年度コロナ対策費として計上したが叶わず、令和4年度も予算に資料費として計上予定だが、コロナ交付金等の補助金を待って導入してはという考えもある。</p> <p>対象は全市民としているが、小中学生は学校の電子書籍が利用できるため、小中学生以外を対象とし、紙媒体で購入しているものは電子書籍では収集せず、旅行、健康、料理などの実用書をメインに収集することを考えている。</p>
委員	人気があって待ちが多いものは紙媒体と電子書籍の両方あるとよいと思う。
事務局	今のところ、人気のあるものはコンテンツにあまり入っていない。
会長	紙媒体と電子書籍ではどちらが高額か。
館長	<p>一概にどちらといえないが電子書籍の方がいくらか高額である。業者からは今まで紙媒体が安すぎたので電子書籍は妥当な価格だと説明があった。</p> <p>問題となるのが、予算の枠の中で電子書籍を買うか買わないかということである。旅行ガイドブックは、持ち歩いても汚損や破損がなく、失くす心配もなく、情報も新しいので電子書籍としてのメリットがある。そういうメリットがあるものから入れていく。</p> <p>参考資料にあるとおり。予算が多ければ利用が多いのは明らかだが、白井市の場合予算は少なく、始めるとすれば電子の特性が活かされたものを選んで入れることになる。市民からの需要がありそうな実用書から始めてはどうかというところで止まっている。他市で人気があっても白井市で人気がないと困るので、難しいところである。</p> <p>職員は、デモを見て実際の動きを体験し調査を進めている。</p>
会長	電子書籍が借りられるとなると期待が膨らむが、実際見たときにコンテンツが少ないと残念に感じるのでバランスが大事だと思う。
委員	分野が広いので、少しずつ広げる方がいいと思う。

会長	最初から全部やるのは難しいので、白井では最初は実用書から始めますというように方向性をうたってから始めると市民からも理解を得やすいと思う。
委員	旅行ガイドブックや料理の他に健康の分野を入れている図書館が多い。カウンターに持っていくのを躊躇しがちな病気や健康の本は電子書籍にあってもいいのかなと思う。
委員	市民ニーズを得るためのアンケートなどはどう考えているか。
館長	文化センターのあり方検討委員会が終われば要望をとっていきるのは可能である。実際導入する時にニーズの掘り起こしは必要である。
委員	公共施設は世間より10年くらい遅れていると感じる。一般的には旅行でも健康でもタブレットで調べることが多い。個人的には昔の小説を見られれば便利だと思うが、市民ニーズをとらえるのは難しい。まだ導入館が一割程度なので少し様子を見てもいいのかと思う。
館長	図書館界でもデジタル化にどう対応するかが課題である。本は購入すれば所蔵になるがデジタルは所蔵といえるのかどうか明確になっていない。最終的に令和7年を目途に導入するのが最善ではないかと思う。その間、時期や内容を吟味する。出版社も紙とデジタルの出し方を考えてくると思う。
事務局	欠席の委員から意見をいただいている。 「非来館で利用できるのはバリアフリーという意味で良いと思う。ただ絵本専門士として、絵本は、紙の質感や話の流れがあるので冊子体も良いと思う。」
委員	今は過渡期ではないか。スマホが当たり前の時代で、この先も時代の変化で当たり前が変わっていく。アナログとデジタルのバランスが大事と思う。
委員	難しい問題と思うが慎重に丁寧に進めていくのが良いと思う。学校は導入したが始まったばかりでどうなるかなという感じ。じっくり読むとなると本好きな子は紙の本を選ぶが、これも変わってくるかもしれない。バランスだと思う。
館長	何か気付いたことはその都度、来館されたときなどにお声掛けいただきたい。
会長	他市の電子図書館を見たが、小説は少なく児童書や実用書であった。説明を聞いて小説が少ない理由がわかった。市民には初めに方向性を知らせてから始めた方が理解は得やすいと思う。 電子書籍については今後も検討していくことでよいか。

	<p>その他 令和3年度蔵書点検結果報告 ウイルス除去機と対話支援システム機器の設置報告</p>
委員	カメラで測れるような体温計はないか。
センター長	文化会館の入口に複数人測れるサーモカメラを置いている。
委員	図書館にも設置を希望する。
事務局	次回は令和4年2月24日（木）午後3時を予定している。 本日はご協力ありがとうございました。